

大桑 第126号

5月号

まさたか



さかえく せかい か
栄区から横浜を変える！

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅で配っていきます！

栄区から、しがらみのない市政(政治)を実現します！

市議員3期目
よろしくお願ひします！

市議員としての約束

- 1、選挙の前も選挙の後も駅前に立ち続け新聞(広報)を配り続けます。
- 2、大桑まさたかの政務調査費を公開し続けます。
- 3、私たち市民が市政(政治)に参加する流れをつくります。
- 4、子や孫のために持続可能な横浜(社会)をつくります。

第5回アフリカ開発会議について

平成25(2013)年6月1日(土)から6月3日(月)の予定で、横浜において、第5回アフリカ開発会議が開催されることになっておりますので、ここでお知らせします。

このアフリカ開発会議は、日本政府が国連や世界銀行などと共催するアフリカの開発をテーマとした国際会議となっており、1993年から5年に1回開催されています。第1回から第3回は東京で開催されてきましたが、2008年5月に開催された第4回アフリカ開発会議は横浜で開催されました。

次に、2008年5月に横浜で開催された第4回アフリカ開発会議には、41名の国家元首・首脳級を含む51か国や、34か国のアジア・欧州諸国、それに加え、74の国際機関などの代表、そして、NGOなど市民社会の代表が3000名以上も参加するという大規模な国際会議でした。今回おこなわれる第5回アフリカ開発会議も同じような規模になりますので、交通規制などに、ご理解・ご協力をお願い致します。

大桑新聞

プロフィール

大桑正貴(まさたか)

第126号(5月号)

連絡先

横浜市議員 大桑正貴(市政報告書)

〒247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町688-4-601

TEL : 045-892-5187

FAX : 045-892-5187

H P : <http://m-okuwa.net/>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp

昭和48年(1973年)7月4日生まれ横浜育ち 血液型A型

横浜市立小山台小学校入学

大分県立大分舞鶴高校入学(1年次冬、転勤で横浜へ戻る)

神奈川県立大岡高校卒業

神奈川大学法学部法律学科卒業

平成14年(2002年)12月 アシスト株式会社退職

平成15年(2003年)4月 横浜市議員 初当選

平成19年(2007年)4月 横浜市議員 2期目当選

平成21年(2009年)9月 明治大学 専門職大学院卒業

平成23年(2011年)4月 横浜市議員 3期目当選

家族 : 妻、子(3人)、ママ(猫)、グリ(犬)

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅、いずれかの駅で配布しております。

3月分の収支報告(収入は政務調査費55万円/毎月)

平成24年度3月現在の政務調査費累計残高は**41,356円**です。

今月の支出の内訳

調査研究費	0円	資料作成費	0円
研修費	0円	資料購入費	7,170円
広報費	458,418円	人件費	0円
広聴費	0円	事務所費	98,977円
会議費	0円	事務費	9,382円

3月の支出合計は

573,947円です。

近況報告

平成25年第2回市会定例会は平成25年5月14日(火)から5月30日(木)で開催される予定となっています。先月もお知らせしましたが、5月に開催される第2回市会定例会では、新たに所属する委員会などが決まることとなりますので、決まりしだい、改めて、お知らせします。

横浜市の人口

平成25年4月1日現在の横浜市の人口は、369万3,788人となっています。平成24年、1年間で横浜市の人口は5,795人増加しましたが、年々、横浜市の人口が増えるスピードは鈍化しています。

昭和40年台は横浜市の人口が1年間で10万人以上も増加するということがありました。しかし、年々、人口が増えるスピードは鈍化し、ここ数年は上でも書きましたが、1年間で人口が1万人増加するのも難しい状況になっています。

このような状況は、少子高齢化が続く限り、今後も続くと言われます。そこで、これからの横浜市は、人口が増加することによって外へ外へと広がっていった今までの「まち」を、駅などを中心にして「まち」をどのようにコンパクトに再構築していくかという転換点に立っています。是非、今後の新たなまちづくりにご理解・ご協力頂けるようお願いいたします。

これからの緑の取組

現在、横浜市は「これからの緑の取組(平成26年度から平成30年度)」の素案を作成しようとしています。

これまで横浜市は、今ある緑を守り、その緑を子や孫へ残していくために「横浜みどりアップ計画(平成21年度から平成25年度)」を進めてきました。この計画は「樹林地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」という考え方をもとに、緑の保全・創出などに努めてきました。しかし、この計画が今年度で終了するため、上に書いた「これからの緑の取組」を作成しようとしています。

次に、「これからの緑の取組」の目標ですが、これまでの計画と同じような目標になるとは思いますが、「緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指す」「地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理を充実し、質を高める」などとなっています。

最後になりますが、これらの計画は、皆さまから頂いている「横浜みどり税」を活用して計画を進めております。今後はこの「横浜みどり税」も議論していくこととなります。

保育所の整備

横浜市は待機児童対策として保育所などの整備を積極的に進めてきました。そのため横浜市の待機児童(保育園などに入りたくても入れない状態)は大幅に減り、待機児童が限りなく「0(ゼロ)」に近づくという成果は出しています。一方で保育所を整備したり、保育所を運営するためには、多額の費用がかかります。



大桑新聞ではみなさまとともに、
栄区について考えていきたいと思っております。

HP : <http://m-okuwa.net/>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp